

CONCOMITANT SEPTAL MYECTOMY WITH AORTIC VALVE REPLACEMENT FOR SEVERE AORTIC STENOSIS WITH LEFT VENTRICULAR OUTFLOW TRACT OBSTRUCTION

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2023-06-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 梅津, 明子 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003045

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2730 号

CONCOMITANT SEPTAL MYECTOMY WITH AORTIC VALVE REPLACEMENT FOR SEVERE AORTIC STENOSIS WITH LEFT VENTRICULAR OUTFLOW TRACT OBSTRUCTION

左室流出路狭窄を伴う重症大動脈弁狭窄症に対する弁置換術と併施する心筋切除術の検討

梅津 明子 (うめつ あきこ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

心室中隔切除術が肥大型心筋症の生命予後を改善するという事はよく知られている。しかし、重度大動脈弁狭窄症 (sAS) に合併する左室流出路 (LVOT) 狭窄 (LVOTO) に対する有効性はまだ確立されていない。また、経カテーテル的大動脈弁留置術の適応が拡大しつつある昨今、心筋切除術を併施可能な従来の外科的大動脈弁留置術 (SAVR) がどういった患者により有益なのかを知る事は重要である。本研究では、これらの疑問を明らかにすべく、当院にて施行された心筋切除術を後ろ向きに解析した。2012 年から 2019 年の間に sAS に対し SAVR を施行したのは 743 例であった。まず心筋切除群 43 例とそれ以外に分類し、患者背景と術前心エコーの比較を行った。更に心筋切除群については LVOTO リスク (HCM の診断、左室壁 ≥ 15 mm、S 字状心室中隔、収縮期僧帽弁前方運動、心室中隔/後壁比 > 1.3 、LVOT 最大圧格差 ≥ 30 mmHg、LVOT 最大速度 > 1.0 m/s)、手術詳細、心エコーの術後変化、そして予後についての解析を行った。切除心筋は組織学的解析をした。結果、心筋切除群はその多くが高齢 (76.2 ± 6.6 歳) 女性 (77%) であり、心臓は小さく過収縮な傾向が見られた (左室内径拡張期 43.0 ± 5.2 mm、左室内径収縮期 25.3 ± 3.9 mm、左室駆出率 $71.1 \pm 7.4\%$)。術後は求心性左室肥大と LVOTO の測定値が改善し (相対的壁厚 0.57 ± 0.10 mm $\rightarrow 0.51 \pm 0.07$ mm、 $P < 0.05$ 、左室心筋重量係数 129.7 ± 33.6 g/m² $\rightarrow 111.2 \pm 24.5$ g/m²、 $P < 0.01$ 、LVOT 最大速度 1.92 ± 1.34 m/s $\rightarrow 1.20 \pm 0.67$ m/s、 $P < 0.05$)、生命予後はこれまでの文献報告と同等であった。また、75 歳以上の患者に絞っても各々の解析はほぼ同様の結果であった。切除された心筋の組織学的解析では、程度は異なるものの様に線維化が見られた。従って、sAS に合併する LVOTO に対して、心筋切除術と SAVR は安全に併施可能で、術後 LVOTO は改善する。高齢女性でサイズは小さいものの肥大がより強く過収縮傾向の心臓の患者については、直接 LVOT を観察し心筋切除を追加可能な SAVR が適している可能性があり、注意して LVOTO の評価を行う必要がある。